

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 3月の金融・マーケット動向

### 3月危機と株式持合い

毎年の恒例的現象となった3月危機。危機も度重なると危機とは呼べなくなる。今年の危機もどこか薄っぺらな感じで聞こえてくる。感覚が麻痺してきたのだろうか。それとも伝えられる危機には違った狙いがあるのだろうか。

株価が下がると、その原因として必ず指摘されるのが「持合い解消の売り」である。需給が悪化して下げの動力となるから解消売りを何とかするという合唱が起こる。そのために、株式取得機構機能強化、日銀銀行保有株を取得枠拡大、銀行株式保有制限緩和、等の対策が採られる。しかし、これって本当だろうか。危機喧伝による現状維持策ではないか。そう疑う。

### 「地域金融機関の在り方」報告

27日、金融審議会から「リレーションシップバンキングの機能強化について」という報告書が出た。45頁にわたるこの報告書は、今後の「地域金融機関の在り方」に大きな影響を与えるものと思われる。従って詳しくは別に案内したいと思っているが、報告書の要旨は概ね次の通りである。

1. 地域活性化に果たす金融機関の役割は大きい
2. 大手銀行と同じように2004年迄の不良債権処理を求めるのは適当ではない
3. 2004年迄の2年間を地域金融集中改善期間とする

この報告書をまとめる際に、「地域金融に甘い」とかなりの反論があったようだが、政治的思惑が優先されたようだ。地域金融機関と取引している業績不振の中小企業は、これからの2年間が与えられた最後のチャンスを思って業績改善に取り組む必要がある。

### 少人数私募債、発行支援

東京足立区と文京区が、少人数私募債を発行する中小企業に対し、債券購入者に支払う金利の一部を補助する制度を4月からスタートする。

少人数私募債についてはこれまで何度か案内してきたが、いよいよ公的機関がその発行を側面支援するようになった。時代の流れにある種の感慨を覚えたが、片や銀行など既存金融機関の退潮がそれだけ著しいのだと思わない訳にはいかなかった。

### 中部銀行の譲渡先

昨年3月破綻した中部銀行の事業譲渡が1年後の今月完了した。譲渡引継ぎ先は下表の通り。

	清水銀	静岡中央	東スター	RCC	合計
貸出金	1,117	344	326	590	2,377
先数	13,675	4,852	1,506	1,439	21,472
店舗	2	1	4	-	-
社員	73	28	18	12	131

(貸出金単位：億円)

今後、RCC移管の1,439社の再建や就職先が決っていない154名の再雇用が課題となっている模様。

### 新生銀行、休日営業

既存銀行が各種手数料の一方的引上げを図り利用者の怒りを買っている中で、振込手数料ゼロ、現金カード払出手数料ゼロを断行している新生銀行が休日営業に乗り出すと伝えられた。通常の店舗とほぼ同じ業務を扱う模様で、実現すれば業界にかなりのインパクトを与えよう。

日本の銀行が、顧客サービスを標榜しながら平日営業に限定し、しかも午後3時に店を閉める体制を依然として続けているのを摩訶不思議と思っている人は多いが、そうした銀行が自分達と違ったことを実行する新生銀行を「憎し」と思う理由が解るような気がした。私は今、新生銀行に口座開設しようと考えている。

### 個人金融資産、減少

17日発表の日銀データによると、昨年末時点の個人金融資産は1,396兆円で前年比1.3%減となった。昨年9月に続き2四半期連続の1,400兆円割れで我が国最後の砦とも言われる個人金融資産の減少傾向が鮮明となった。

減少の大きな要因は株価下落とのことであるが、雇用所得の減少も影響していると思われる。

### 企業に残る土地30兆円

24日、国土交通省から公示地価が発表された。11年連続！改めて土地本位経済崩壊のダメージを思った。しかし、未だ依然として企業は大量の土地を抱えている。

85年以降93年迄の企業部門の土地買越し額は約45兆円、これに対し94以降は売越し額が約15兆円、差引きざっと30兆円の土地が企業部門に残っているという。「まだ、そんなにあるの？」と思わざるを得ないが、それが実態かもしれない。